

特定非営利活動法人分析産業人ネット

第 14 期活動報告

平成 29 年度

2017.4～2018.3

ご挨拶

理事長 澤田嗣郎

設立 14 年目も、昨年に引き続き、持続可能な経営を目指して 1 年間活動をおこないました。今年度の事業活動は人材育成事業と振興普及事業とも伸び悩み必要とする事業活動収入は依然として未達ですが、事業を継続するための基盤の強化は引き続き実施しました。しに。来年度も会員を中心に協賛企業やボランティアの協力を仰ぎ、持続可能な経営という目標達成に向けて活動を推進する所存です。

平成 29 年度の活動概要

平成 29 年度の我が国経済は引き続き緩やかな成長をしたものの、国内のサービス業では人材不足が、輸出型の製造業では為替の変動が懸念材料になりました。当法人が扱う機器分析技術は、科学技術、材料開発、品質管理、環境計測と多くの分野の基盤技術のため、特定の産業の成長や停滞に大きく影響は受けませんが、これらの産業で働く個人を主な対象とするため間接的な影響があります。今年度は、経済成長が事業活動にプラスに働くような影響を感じることは出来ませんでした。

本年度はこのような外部状況の中で、人材育成事業、振興普及事業共に、積極的に顧客への対応を充実させ、新規に接遇した見込み客とのコミュニケーションを図りました。

人材育成事業では、中核をなす資格認定事業において、受験対象となる機器分析の実務者を対象とする広報活動に加えて、実務者を雇用する管理者や企業に対する広報を開始しました。また、セミナー・講習会事業では当法人の独自性を示せるように通常の講習会と共に JASIS 展での主催セミナーのテーマに工夫を致しました。

振興普及事業では、ビジネス支援事業では Pittcon 出展の支援業務の受託はなかったため展示会の一日目の日本人参加者向けランチョンミーティングをランチョンセミナーと改め、充実を図りました。通信販売事業はリピートオーダーが増加したものの新規の受注は減少しました。コンテンツ制作事業では来年度の発行に向けて機器分析の創業者の第 2 版の企画を行いました。簡易機器事業では開発したブレッドボードを利用した光度計の自作キットを使用して、実習講座を開講しました。

社会貢献事業は、昨年に引き続き、日本で行う機器分析に関するナーチャー賞エッセイコンテスト、タイ国での泰日工業大学の学生への奨学金の提供と日本語スピーチコンテストの支援等日本語教育への支援、昨年より開始したマレーシア日本国際工学院に対する日本語スピーチコンテストの支援を行いました。

平成 29 年度の活動組織

当法人の事業活動は正会員 50 余名のボランティアを中心に実施していますが、これを支援する組織として事務局とは別に事業推進センターを設置し常勤の職員と共に非常勤のボランティアにより活動をおこなっています。

今期のトピックス

泰日工業大学（TNI）10周年記念式典への招待（8月）

タイ国の首都バンコックのパタナカーンにある泰日工業大学は2007年にタイの日本人留学生在が創立した泰日技術振興協会（英語略称 TPA、タイ語略称ソーソートー）が母体となり、日本流のものづくりが出来る人材の教育をめざして開学しました。当法人は社会貢献事業として、この大学に対して開学の中から奨学金の授与や日本語スピーチコンテスト等の賞金提供等を行ってきました。この泰日工業大学が創立10周年を迎えて、その記念セミナーと記念式典がバンコック市内のホテルで行われ大学への貢献を認められて招待を受けました。当日は来賓のタイの新設されたデジタル経済社会大臣からタイが目指す Industry4.0 についての講演や日本の経済産業省の審議官による日本の ASEAN とタイに対する取り組みについての講演等につき、盛況の中で式典が行われました。



泰日工業大学の理事と記念撮影

You tube に painet-channel を創設：当法人の紹介ビデオの新作公開(10月)

分析産業人ネットではインターネットでの動画の配信が普及して来た状況を踏まえて、動画サイト painet-channel を You tube 内に開設しました。この動画サイトを今後活用していきますが、手始めに、新たに制作した当法人の紹介ビデオをアップロードしました。今回の動画ははじめの3分の2が機器分析技術が社会で担う役割と機能についての説明となっていますので、まったくの門外漢の方にも当法人の活動について理解を深めて戴けると期待をしています。また、既に当法人の活動を記録した掲載可能の動画を当法人の紹介動画を含めて11篇掲載しています。今後は講習会の記録や通信講座等で活用する予定です。



検査分析士資格認定制度の報告書の作成(1月)

検査分析士制度が発足して既に10年が過ぎ、初級資格試験合格者も500人を超えました。今まで検査分析士資格認定制度についてはもっぱら受験対象者向けの説明に終始していましたが、今後も継続して受験者を集めためには、検査分析士資格の活用をはかる立場の人への働きかけも大切になります。そこで資格制度について発足から今までを振り返り、これからの10年を展望した報告書を作成しました。この報告書では資格制度の説明と試験問題の概要、今までの実施した試験の実績が報告されています。

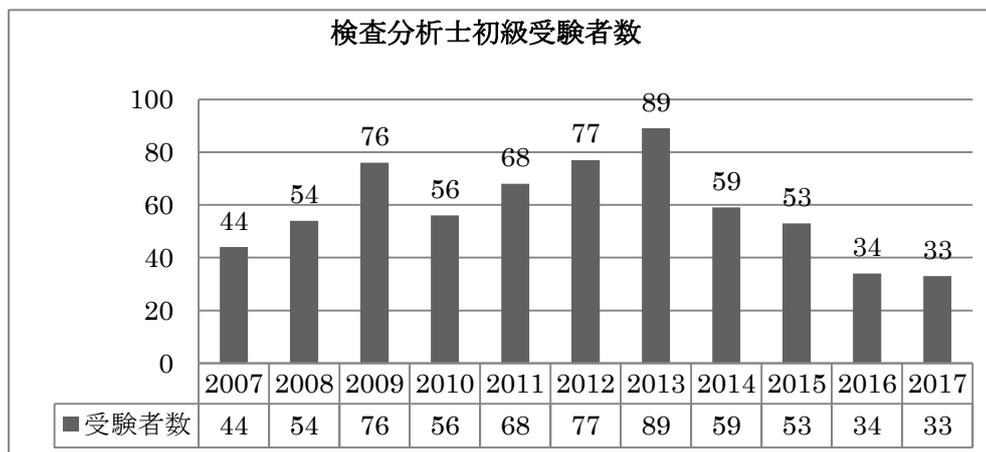
事業報告

I. 人材育成事業

人材育成事業の活動は当法人のビジョン「分析技術を担う、世界に通用する人材の育成」を目指して実施しています。

1. 資格認定事業

検査分析士と検査分析士マーケティングエキスパートの初級と上級の資格認定試験は2017年7月29日（土）の午後、仙台、東京、京都、福岡の4都市で同時に行いました。札幌と名古屋は受験会場を用意したものの、受験者がいませんでした。受験者は検査分析士が33名、検査分析マーケティングエキスパートが1名と昨年並みで団体試験は昨年に引き続き1団体で受験者は8名でした。上級試験受験者は今年も3名と昨年並みでした。合格者の継続的な学習を支援する検査分析士会の研修会を今年も、春と秋に東京と大阪で行いました。検査分析士の総会は秋の東京の研修会を兼ねて開催しています。



2.

トリニティスクール事業（講習会・通信教育事業）

機器分析に関する実務家の自己啓発の機会増大をめざして実施する講習会と通信講座ですが、今年度は講習会の受講者が増加に転じたものの通信講座の受講者は減少しました。今年度も新規に講座を開講することが出来ませんでした。来年度の新規講座の開講をめざしてテキストの作成等の準備をおこないました。JASIS 展に合わせて幕張メッセの国際会議場で開催したマーケットトレンドセミナーは「機器分析のシステム化の現状を探る」をテーマに開催しました。当法人として初めての講演者に依頼し、セミナーへ初めて参加する方も多く、当法人の持つネットワークの充実に繋がりました。



マーケットトレンドセミナー

II. 振興普及事業

振興普及事業の活動は当法人のビジョン「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」を目指して実施しています。

1. ビジネス支援事業

今年度も国内は毎年4月に開催されるCP h I 展（国際医薬品原料・中間体展）と9月に開催される機器分析の展示会JASIS 展にブース出展を行いました。4月のCP h I 展では簡易光度計の実演デモと資格認定事業紹介、JASIS 展では今年も東京環境経営研究所と連携しそれぞれ2ブースを使って展示を行いました。当法人は資格認定事業や通信講座のテキスト等を展示し、簡易光度計の実演を行いました。またJAISIS 展ではPittconのブース出展の支援も行っています。米国フロリダ州オーランドで2月末から3月にかけて開催された世界最大の機器分析のコンファレンスPittcon ではブース出展とともにコンファレンスで“Advanced imaging and sensing technologies”のテーマでセミナーを開催し、日本からの参加者を対象にして展示会初日に有料のランチョンセミナーを開催し今年も20名余の参加者がありました。ブース出展では支援事業として北海道大学で開発した小型液クロのカタログ展示を行いました。



Pittcon のランチョンセミナー

2. ネットバザール事業（通信販売事業）

今年度はブックストアの売り上げ増を図るために図書目録を作成しましたが、売り上げ増には繋がりませんでした。一方、ラボ用消耗品はまだ、件数は少ないもののリピート数が増加傾向にあります。来年度に向けて、パームトップ光度計シリーズと謳ったカタログを作成しました。

3. コンテンツ制作事業(出版事業)

今年度は来年度発行予定の「Makers of Modernity in JAPAN」第2版で取り上げる創業者の候補について検討をしました。また、タイの日本語スピーチコンテストの第5回(2014)から第8回(2017)の記録集「おもいをつぐむ」の編集を行いました。

4. 簡易機器事業

今年度は昨年、開発した学習用のアナログ吸光光度計や試作した繰り返し組立可能なブレッドボード型光度計を利用した実習講座を開催しましたが、受注に至るところまでは行きませんでした。

Ⅲ. 社会貢献事業

当法人の社会貢献事業は日本においては「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」のビジョンにそって機器分析に関するエッセイコンテストを実施、タイ国においては「分析産業人ネットの慈善活動」で掲げたビジョンに基づいて活動を展開しています。

1. 機器分析に関するエッセイコンテスト

エッセイコンテストは毎年、募集を9月に開始、11月中旬に応募を締め切り、12月に選考委員会を開催して受賞者を決めています。第9回となる今年度の応募総数は昨年に引き続き21件となりました。選考の結果、受賞者は大賞1名と優秀2名、ステュディオス賞、ファーストペンギン賞、ノウィ・ホミネス賞各2名の方が受賞されました。また今年には新たに設けた検査分析士会奨励賞を1名が受賞しました。表彰式は、新年交流会の会場で行いました



受賞者の記念撮影

2. タイの泰日工業大学の日本語スピーチコンテスト

今年も9月に3年生を対象とするコント形式のプレゼンコンテストを、1月に日本語の履修時間が多いビジネスコースの学生を対象としたスピーチ形式のコンテストが行なわれました。1月のスピーチコンテストでは、今まで募集条件を満たさない学生のため募集条件の違う2つのコンテストが開催されました。

3. タイの泰日工業大学学生への奨学金 (PAI-NET FUND)

この奨学金は泰日工業大学の2年生、3年生、4年生各3名に対して生活支援資金として一人3万バーツを支給します。この奨学金の給付は6月から3月まで毎月3,000バーツです。タイの学校は6月が新学期、4月と5月が夏休みです。奨学金の授与を始めてから10年となり、既に21名の奨学生が卒業して働いています。今年も奨学生の同窓会を6月に開催しました。今年には日本に2年間研修に行った学生が帰国して会に参加し、上手な日本語で近況の報告をしてもらいました。

4. タイの泰日工業大学の日本語科への図書への寄贈

日本語学習のための標準的なテキストがないため、日本語科の先生方は授業にあたって、いちいち教材をつくりながら講義を行っています。その教材をつくる時に参考となる日本語学習の参考書を先生方のリクエストにより日本で調達して寄贈しています。

5. マレーシア日本国際工学院 (MJIIT) での日本語スピーチコンテスト

当法人が支援する第2回の日本語スピーチコンテストが11月9日のMJIITにほんダーに合わせて開催されました。日本からに会員が審査員として参加しました。

IV. 法人の運営状況

1. 組織

当法人の運営は理事会で経営方針、経営計画等を審議しますが、各事業の具体的な活動方針は理事と正会員に外部の委員も加えた人材育成委員会、資格推進委員会、教材企画委員会、社会貢献検討委員会において審議を行い、また当法人の活動全体の推進に関してマーケティング会議、パブリケーション会議で検討を行っています。具体的な実務は、理事会等で決められた方針、計画に基づいて事務局長を中心に事業推進センターの常勤者と正会員、検査分析士会会員のボランティアにより活動を行います。事務局と会員で出来ない一部の講習会・セミナーの講師等については必要に応じて外部に業務委託をしています。

2. 財務

当法人の活動は会員からの会費収入と、当法人が行う事業の収入により持続出来ることを目標にしていますが、現在は収入が不足するために会員の寄付により補充をしています。寄付に依存しないで当法人の持続的な活動の継続をするために、事業活動による収入が全収入の 8 割となる必要がありますが、今年度も資格認定事業、ビジネス支援事業、ネットバザール事業で売上げが落ち込み、事業収入は全収入の 5 割弱に留まりました。

3. 投資

今年度の投資は検査分析士資格試験の受講者増のために、配布用カタログボックスの購入、検査分析士資格の海外展開のために初級テキストの英語版の出版、ネットバザール事業のブックストアの図書目録の出版、簡易機器事業の日本語と英語によるパームトップ光度計シリーズのカタログの制作等、販売促進のための冊子の制作が中心となりました。

4. 広報

当法人の広報は WEB をベースとした広報活動と会報を中心とする紙媒体の広報活動を組み合わせています。分析産業人ネットの会員向けに会報誌「NURTURE」と、検査分析士会会員向けの会報誌「SHUHARI」を季刊で発行しています。会員向けの会報誌は当法人が関連する学識経験者や経営者、技術者等にも配布しています。その他に事業活動を円滑に進めるためにボランティア向けに事業別に E-mail によるレターを不定期で発行しています。外部向けにはビジネス支援事業の推進のために Pittcon2018 ガイドの発行等を行いました。外部向けの広報は月 2 回約 1500 名に E-mail 配信で NEWS を発行しセミナー・講習会の告知、資格試験の案内等を行う他、Facebook、Twitter による発信を随時行っています。今年度は You-tube に独自の painet-Channel を設けて動画による広報を開始しました。また会報の質の向上を図るために WEB によるアンケートを実施しました。

特定非営利活動法人分析産業人ネット

英文名 Professionals' Net Work in Advanced Instrumentation Society

設立 2004年11月24日

事務所所在地 〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町2-6 淡路ビル4F

電話 03-5294-3115 FAX 03-5294-3344 E-mail info@pai-net.or.jp